

「なら燈花会」に行ってきた。平成11年から始まった光のイベントです。8月5日から15日まで、奈良公園一帯に広がる6つの会場に1万5千を超えるろうそくの灯りの花が咲き誇ります。「燈花」とは、灯心の先にできる花の形の塊で、これができると縁起が良いと言われています。訪れた人々が幸せになるようにとの願いを込めて、ろうそく一つ一つに灯りが灯されます。

ろうそくは、白いガラスの筒や竹筒の中に水を入れて浮かべてあります。鹿がいる所にもたくさん並べてありました。鹿が倒すようなことは特に無く、鹿よりも人間の子供の方が不用意に倒してしまったりしています。



まだ明るい浮雲園地（県新公会堂前）

点灯は7時。膨大な数のボランティアが、6時頃から筒にろうそくを入れて回り、7時前からチャッカマンで火を付けて回ります。結構、大変な作業です。



薄暮の東大寺南大門横



ろうそくを浮かべた白い筒

火が灯ると、ろうそくの数が多いだけでなく、かなり幻想的というか、感動的な風景が目の前に広がります。併せて、各お寺や博物館などのライトアップも楽しめます。

広い草原一面に広がる無数の灯りもきれいですが、水面への映り込みと一体となった風景がとてきれいで感動的でした。

6つの会場は、結構広域に散っており、全部回るには、相当歩く覚悟が必要です。私個人の意見としては、東大寺周辺がお勧めです。



暗くなってからの東大寺南大門横



国立博物館本館前



14日の土曜日に行ったので、ものすごい人混みでした。翌日の15日は大文字送り火が行われます。京都の五山送り火は何度か見たことがありますが、奈良の大文字は見たことがないので、来年は人混みを覚悟して、大文字の日に行ってみようかと思います。

東大寺中門前の鏡池

東大寺中門

